

【社会資本総合整備計画】
都市再生整備計画 事後評価シート

入西地区


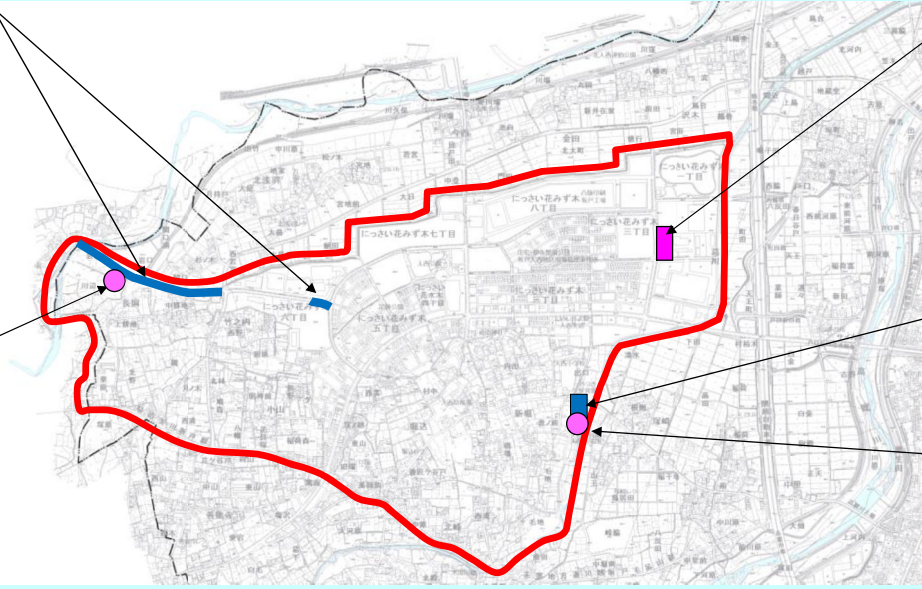




平成27年3月

埼玉県坂戸市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県	市町村名	坂戸市	地区名	入西地区			面積	243.1ha				
交付期間	平成21年度～平成25年度	事後評価実施時期	平成26年度	交付対象事業費	2669	国費率	0.4						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路:入西赤沼線整備事業 高次都市施設:入西地域交流センター整備事業										
		提案事業	地域創造支援事業:入西地域交流センター整備事業、健康増進施設整備事業 まちづくり活動推進事業:地域交流イベント開催事業										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし	削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	地域創造支援事業:阿弥陀堰周辺整備事業 まちづくり活動推進事業:地域健康づくり活動支援事業	阿弥陀堰周辺がヒメボタルの保全区域となったため。 埼玉県健康長寿プロジェクトに指定されたため、当該事業は埼玉県補助金を活用することとなったため。				影響なし					
	新たに追加した事業	基幹事業	なし										
		提案事業	なし										
交付期間の変更	当初変更	平成21年度～平成25年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
	指標1	入西地域交流センター利用者数	人/年	23,765	H19	36,000	H25	-	42,000	○	あり	旧施設利用者や地域住民の意見を聞いて整備を行った結果、旧施設の公民館と比較しても利用者等は期待以上に上回っていることから、十分な成果は出ていると考える。	平成27年4月
	指標2	入西赤沼線利用台数	台/日	0	H20	5,800	H25	-	3,090	×	あり		
指標3	健康だと思っている市民の割合	%	84	H20	90	H25	-	82.4	×	あり	目標値は、5年毎に実施している「市民アンケート」の実績より設定したが、「アンケート」の対象者は市内全域であったため、効果発現にいたらなかった。なお、計画区域内では、一定の効果は出ていると考える。		
										なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み				
その他の数値指標1	自動車の移動時間の短縮	分	19	H26				16			関越自動車道坂戸西スマートICより鳩山町役場までの交通アクセスは、短縮された。 旧施設の勤労者総合スポーツ施設と比較しても利用者等は上回った。		
その他の数値指標2	健康増進施設利用者数	人/年	86,538	H20			100,222						
4)定性的な効果発現状況	入西地域交流センター内へ、乳幼児親子が気軽に立ち寄り、交流や情報交換、相談ができる場である「つどいの広場」を整備したことにより、地域住民及び近隣からの利用者も多く、交流の拠点として機能している。												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	地域交流センター整備に係る関係団体との協議 入西赤沼線整備に係る地元住民等との協議		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 入西地域交流センターについては、今後も市民の意見を聞いて、利用促進及び改善を図る。					
	持続的なまちづくり体制の構築	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									

様式2-2 地区の概要

入西地区(埼玉県坂戸市) 都市再生整備計画事業の成果概要						
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値		
大目標 人々が集い交流する健康で活気のあるまちづくり 目標1 市民の交流の拠点となる施設を整備するなど、コミュニティの活性化を図る。 目標2 都市計画道路の整備により交通アクセスの向上を図る。 目標3 健康増進拠点の拠点となる施設を整備するなど、市民の健康増進を図る。	入西地域交流センター利用者数	単位: 人/年	23,765 H19	36,000 H25	42,000 H26	
	入西赤沼線利用台数	単位: 台/日	0 H20	5,800 H25	3,090 H26	
	健康だと思っている市民の割合	単位: %	84 H20	90 H25	82.4 H25	
		単位:	H	H	H	
		単位:	H	H	H	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 25%;">  <p>入西赤沼線整備事業(基幹:道路)</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 25%;">  <p>健康増進施設整備事業 (提案:地域創造支援事業)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 25%;">  <p>地域交流イベント開催事業 (提案:まちづくり活動推進事業)</p> </div> <div style="width: 25%;">  <p>入西地域交流センター整備事業 (基幹:高次都市施設)</p> </div> <div style="width: 25%;">  <p>入西地域交流センター整備事業 (提案:地域創造支援事業) つどいの広場</p> </div> </div>						
まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 交流センターを整備したことにより、旧施設の利用者と比較しても利用者が増加した。また、新旧住民のコミュニティの醸成も図られたことから、本市初である地域交流センターの目的は達成された。 入西赤沼線利用台数の目標値は達成できなかったが、鳩山町との行政界を超えた道路網の整備により交通利便性が向上した。また、関越自動車道坂戸西スマートICのアクセス道路としての位置づけから同時期に開通できたという目的は達成された。 健康だと思っている市民の割合の数値目標は達成しなかったが、健康増進施設へ改修したことにより利用者が増加し、市民の健康増進への意識醸成が図られた。 					
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 交流センターでは、地域住民の交流を図るための事業を実施し、地域の絆・連帯感を育むことを目標とする。また、市民が主体となって実施する事業の支援を行い、地域コミュニティの活性化を図る。 市民の健康づくりの拠点施設である健康増進施設を有効活用し、様々な健康増進施策を推進し、市民の健康づくりの支援と健康増進を図る。 シティプロモーションの展開を行い、本市のまちの魅力を整理・検討したうえで、市外に向けて積極的・効果的に情報を発信し、本市の知名度や施策の認知度を高めていき、来訪者の促進につなげていく。 					

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	埼玉県	市町村名	さかどし 坂戸市	地区名	にっさいちく 入西地区	面積	243.1 ha
計画期間	平成	21	年度	～	平成	25	年度
交付期間	平成	21	年度	～	平成	25	年度

目標

- 大目標 人々が集い交流する健康で活気のあるまちづくり
- 目標1 市民の交流の拠点となる施設を整備するなど、コミュニティの活性化を図る。
 - 目標2 都市計画道路の整備により交通アクセスの向上を図る。
 - 目標3 健康増進拠点の拠点となる施設を整備するなど、市民の健康増進を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・当地区内には、平成元年から都市再生機構(都市基盤整備公団)による区画整備事業が施行され、平成20年9月1日現在、1,359世帯、4,165人が住む大規模な住宅地が形成されている。既に、新住民の割合は入西地区人口の4割を超えており、今後も更に人口が増加する見込みである。
- ・地域住民の交流の拠点となる現施設は、昭和45年度に建設されたため、既に老朽化しており、また、人口が増加した現在においては、かなり狭隘化している。
- ・平成19年3月に、入西地区より住民総意として地域交流センターの早期建設の陳情が提出された。
- ・地域住民の交流の拠点となる現施設は、地域防災拠点として位置付けられており、市民の安全を守る重要な施設である。
- ・安全で安心なまちづくりへの関心が高まってきており、当地区でも市民の防犯(17団体)や防災(5団体)に関して活動団体の協力を得ている。
- ・余暇時間の拡大、核家族化、情報化、高齢社会といった社会状況を背景に、個人志向の高まりや価値観、生活様式等の多様化傾向により、地域の連帯意識・ふるさと意識の希薄化の傾向がある。
- ・当地区には大規模な宅地造成による新しい街が含まれており、若い子育て世代も多数暮らしている。
- ・本市においては、健康づくり政策を重要施策のひとつとして、また、地域コミュニティの活性化を図るための手段としても推進している。
- ・食と運動、健診を有機的に運動させることで、市民の健康づくりを一体的にサポートし、「日本一の健康づくりのまち」を目指す。その推進体制として健康増進部を新設する。
- ・最近の健康志向の高まりから、既存の体育館等の利用が急増している。
- ・鳩山町の今宿、赤沼地区と当該地区は、地縁・血縁で結ばれており、行政界を越えた地権者も多く、行政界を越えた交流がある。
- ・本市は、「よさこいと花のまち」とし、花によるまちづくりを推進することにより、地域コミュニティの活性化を図っている。
- ・当該地区には、商業が集積し、また、こはるが池やその周辺には桜並木があり、市内外からの来訪者も多い。

課題

- 新旧住民が混在しており、今後のまちづくりに関してコミュニティの活性化が不可欠であり、活性化のための環境整備が重要な課題である。
- ・地域住民の交流の拠点となる現施設は、昭和45年度に建設されたため、既に老朽化しており、また、人口が増加した現在においては、かなり狭隘化している。このため、コミュニティの活性化を図るうえで支障となっている。
 - ・同様な状況から、現状では元からの住民と新たに流入した住民とのコミュニティの醸成が図られているとは言いがたく、新たな市民交流(防犯・防災組織の活動、地域子育て活動等)の核となるハード及びソフト事業が望まれている。
 - ・地域住民の交流の拠点となる現施設は、地域防災拠点と位置付けており、地域防災拠点としての耐震性や狭隘化の解消が求められている。
 - ・健康志向の高まりから既存の体育館等の利用が飽和状態となっており、健康増進施設への期待が高まっている。
 - ・鳩山町の今宿、赤沼地区と当該地区は、地縁・血縁で結ばれており、行政界を越えた地権者も多いが、車社会となった今日では、道路網の整備が遅れており、交通便利性の向上が求められている。
 - ・関越自動車道の入西地域にスマートインターを設置する方向で関係機関と協議を進めているが、そのアクセス道路としても入西赤沼線(橋梁含む)の整備が重要となる。

将来ビジョン(中長期)

- ・第5次坂戸市総合振興計画において、将来都市像を「市民がつくり育むまち、さかど」とし、市民が主役となる協働のまちづくりを目指している。この実現のため、市民のコミュニティづくりを積極的に支援することとし、地域のコミュニティ活動拠点施設としての入西地域交流センターの建設を位置付けている。また、健康なまちづくりの中で、健康づくりの中心となる拠点施設の整備を位置付けている。
- ・坂戸市都市計画マスタープラン・地区別構想の中で、当該地区は「あふれる自然と豊かな環境に育まれた互いに理解しあえるやさしいまち」と位置付け、福祉活動、ボランティア活動を支える仕組み・組織づくりを進め、いきいきとくらするまちづくりを目指している。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
入西地域交流センター利用者数	人/年	入西地域交流センターの年間利用人数	既存施設の更新・整備することにより、利用者の増加を図り、コミュニティの醸成に繋げる。	23,765	H19	36,000	H25
入西赤沼線利用台数	台/日	入西赤沼線の1日あたりの通過車両台数	新設道路を整備することにより、行政界を越えた広域的な交流を促進させる。	0	H20	5,800	H25
健康だと思っている市民の割合	%	自分が健康だと思っている市民の割合	各種事業を実施することにより市民の健康増進を図り、健康なまちづくりに繋げる。(入西地区)	84	H20	90	H25

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> ▪整備方針1:(新旧住民等の交流拠点の整備) ▪新旧住民の交流機会を創出するため、会議室や多目的ホールその他、つどいの広場を備えた、新旧住民のあらゆる交流の拠点となる地域交流センターの整備を行う。また、新旧住民及び市外の人々との交流の場となる憩いの場を整備する。あわせて、健康増進事業や自主防災事業、地域交流イベントを実施することにより、新旧住民等の交流機会を提供し、もって、コミュニティの活性化を図る。 	入西地域交流センター整備事業
<ul style="list-style-type: none"> ▪整備方針2:(交通環境の改善) ▪交通環境の改善策として、都市計画道路を整備し、市外からの交通の円滑化を図り、地域内外での交流の促進を図る。 	入西赤沼線整備事業 地域交流イベント開催事業
<ul style="list-style-type: none"> ▪整備方針3:(市民の健康増進) ▪健康増進の拠点となる施設を整備するなど、市民の健康を増進させ、健康なまちづくりを図る。 	健康増進施設整備事業 入西地域交流センター整備事業
その他	

入西地区(埼玉県坂戸市) 整備方針概要図

目標	大目標 人々が集い交流する活気のあるまちづくり	代表的な指標	入西地域交流センター利用者人数 (人/年)	23,765	(19年度)	→	36,000	(25年度)
	目標1 市民交流の拠点となる施設を整備するなど、コミュニティの活性化を図る。		入西赤沼線利用台数 (台/日)	0	(20年度)	→	5,800	(25年度)
	目標2 都市計画道路の整備により交通アクセスの向上を図る。		健康だと思っている市民の割合 %	84	(20年度)	→	90	(25年度)

